ボードゲーム 弾む会話

ゲームといえばテレビなどの液晶画面で楽しむ人が多くなったが、みんなで専用盤を囲む「ボードゲーム」も捨てがたい。顔を合わせて遊ぶことで、相手の思わぬ一面が見られることもある。（岡本久美子）

悠遊たいむ

昨年末、大阪市立西区民センターの一室。子どもや大人約30人がグループに分かれ、ゲーム盤を囲んで盛り上がっていた。NPO法人「世界のボードゲームを広める会ゆうもあ」主催のゲーム会だ。

理事長の一階良知さんが、ボードゲームの面白さを広めようと2003年に設立。毎年、「日本ボードゲーム大賞」の選考・発表も行う。ゲーム会は家族連れや未経験者に楽しんでもらいたいと、京都や高松でも開いている。

「ゆうもあゲーム会」で「ねことねずみの大レース」を楽しむ参加者たち（大阪市西区で）

お薦めの一つ、ドイツ製の「ねことねずみの大レース」で遊んでみた。さいころを振ってネズミの駒を進め、追いかけてくる猫から逃げながら、より多くのチーズを手に入れた人が勝ちだ。

駒の動かし方が大切だが、運も大きい。「あー、猫が来る」「大きいチーズ取られちゃった」と会話も弾む。一緒に遊んだ大阪府豊中市の小学4年、畑歩穂さん(10)は「他の人の狙いを読むのが楽しい」と笑顔を見せた。3人の子と参加した大阪市平野区の有岡久美子さん(31)は、「最近の子は初対面の人と遊ぶことが少ない。楽しみながら社交性が身につけば」と話す。

緻密な戦略で極める

一つのゲームを極めようとする人たちもいる。京都市中京区で活動する「京都カタン」は、ドイツ発祥の人気作「カタンの開拓者たち」を楽しむグループだ。無人島「カタン」を舞台に、産出される資源を集め、家や道路を建設して自分の開拓地を広げていく。

さいころの目にも左右されるが、必要な資源を入手するため、時にはライバルを手助けし、不当な交換条件をのむことも。緻密な戦略と交渉力が求められる。

主宰の蜂須賀敏浩さん(33)が始めた「藤森ゲーム会」から、愛好家が集まって派生した。昨年末の会に参加していた同市の会社員林信吾さん(36)は「盤面が組み替えられるので、毎回、違った展開になる。奥が深く、時間を忘れてしまう」と語る。

「カタンの開拓者たち」は6種類の土地の組み合わせで盤面が一変する（京都市中京区で）

遊べる専門店も

愛好者のグループは全国にあり、「(AGF)ゲーム・イベント・カレンダー」のホームページが参考になる。また、大阪・日本橋の専門店「キウイゲームズ」では販売だけでなく、約550種から好きなものを選んで遊ぶこともできる。料金は30分750円、3時間で1200円。終日コースもある。「カラオケやダーツと同じように訪れて」と店長の山崎隆幸さん。友人や同僚らと盤を囲み、知力を尽くして楽しむのも一興だ。

ボードゲームに詳しい大阪商業大アミューズメント産業研究所研究員・高橋浩徳さんの話

ボードゲームはそのアナログさゆえに、一緒に遊ぶ人とのコミュニケーションが生まれやすい。ネット上では、顔も知らない人とゲームで対戦することもできるが、相手が目の前にいることで、表情や反応を見ながらの駆け引きもできる。

頭で競う面白さ知って

昔と比べ、大人がゲームで遊ぶことへの抵抗感が少ない時代。コンピューターゲームに押され気味だが、大人も子どもも一緒に楽しめ、反射神経やコントローラーの操作ではなく、頭を使って勝敗を競う面白さを知ってほしい。

やってみたい人は

世界のボードゲームを広める会ゆうもあ
http://www.u-more.com/index.shtml
京都カタン
http://www.catan.kyovo.org/
(AGF)ゲーム・イベント・カレンダー
http://www.torolic.com/agf/calendar/
キウイゲームズ
大阪市浪速区日本橋5の7の10山田ビル201
http://kiwigames.jp/ 06・6599・9792

こどもの詩

大人になったら

玉盛 弥優（たまもり）

大人になったら 赤ちゃん十人うんで
ママは五人 パパも五人
一か月ずっこうかんして かわいい
子どもをそだてます
その子たちにも子どもをうませて
私が赤ちゃんみんなめんどうみてあげます
一人っ子の私

（千葉県佐倉市・間野台小6年）

◆

係から「ママ」は将来の自分で、夫と5人ずつ分担しながら子育てしたいそうです。

お姉ちゃんでなく妹でもなく、お兄ちゃんでなく弟でもない。必ずじぶんの名でよばれるのが一人っ子の私。（長田 弘）

人生案内

60代 友人なく苦しい

樋口 恵子（評論家）

60代の会社員女性。友人がいません。この先どう生きれば良いか相談します。

私は人と話すのが苦手です。ほかの人はスーパーでもどこでも、知り合いに会ったらよく話をしています。私には何を話したらいいのかわからないのです。

会社でも集まりなどには誘われません。趣味のサークルでも浮いたようになって、結局やめています。先日、会社で時々話す同僚に悩みを聞いてほしいと言うと、用事があると断られました。「友だちが苦手で、孤独な方かと思って読み進んだところ、夫君と円満、息子さん、お孫さんとの明るい家庭と知って、気が抜けるほどほっとしました。その上で、社会的な関係である友人を切に求めていらっしゃる。人間好きというより良いご性格です。それでも「口下手」で友人ができないというお悩みですね。無口や口下手は、ほとんど友だち作りの障害になりません。勝手なおしゃべりを延々とする人の方が嫌われます。聞き上手は、友人作りの第一歩。誠実な聞き手になってください。

また、友人作りと仲間作りとはちょっと違う気がしています。仲間は、職場でもサークルでも、目的に従って自分の役割をこなせば成立します。小さな役割でも積極的に買ってでるようお薦めします。良い家族に恵まれているとはいえ、これから老境に向かって、何かと言えば声を掛け合える仲間は大切です。

心の底からつきあえる友人となると、そんな出会いはいてのみの人が恵まれるとは限りません。あなたの人間好きな性格を生かして、周りの人の長所を好きになってあげてください。新しい年に良い出会いがあるようお祈りします。

くらし 家庭

リラックス 私流

元気もらえるプロレス観戦

鹿島建設関西支店・管理部担当部長 安田晴彦さん 52

広報担当として自社の独自工法や素材をPRしています。やりがいがある一方、組織の一員として素の感情を抑えなければならないことも多々あります。清涼剤としているのがプロレス観戦。自宅ではCS放送の専門チャンネルをつけっぱなしにし、大阪で試合があれば足を運びます。

昔は、スター選手が悪役レスラーを倒す展開が多かったのですが、今は両者が真っ向からぶつかる“ガチンコ”試合が主流。死力を尽くして闘う姿に元気をもらっています。高校野球の観戦に通ずるものがありますが、違うのは、ひいきの選手の勝敗にかかわらず充実した気持ちになれる点です。

「けったいなやっちゃな」と思われそうで、プロレスファンだと明かすのには少々勇気がいります。でも、会社や得意先との宴席で同好の士と出会うと、周囲が引いてしまうほど盛り上がります。休みの土日は観戦三昧。若いレスラーにパワーをもらい、月曜の朝は気力十分で出社しています。